

BTC NEWS

BTCニュース

2026年(1) No.142

新しい挑戦が
動き出す



屋内1000mトラック馬場

2027年完成予定

CONTENTS

① た・づ・な	1
BTC調教場利用馬延べ頭数400万頭到達	
② 科学の箱馬車	4
社会人へのウマ産業科学教育の必要性－帯広畜産大学提供の社会人向け教育「馬産業人材育成プログラム」について－	
③ 海外最新情報	8
イギリスとアイルランドの育成について(その③)	
④ やさしい育成技術	12
馬メタボリックシンドロームについて	
⑤ 研修生のページ	14
～第43期生のここまで研修を振り返って～	
⑥ 調査研究	16
生産地疾病等調査研究の報告（アンケート実態調査）	
あとがき	20



公益財団法人
軽種馬育成調教センター 発行

お問い合わせ先 TEL : 0146-28-1001

物産アニマルヘルス

動物用医薬品

馬の便秘症における
消化管運動機能低下の改善に
優れた効果を發揮!

馬用消化管運動機能改善剤
指定医薬品 使用基準

プロナミド® E 散1%
(モサブリドクエン酸塩水和物)

PRONAMID® E Powder 1%



※詳細は添付文書をご参考ください。

[2023年6月]

製造販売元

物産アニマルヘルス株式会社

大阪市中央区本町2-5-7

<https://www.bussan-ah.com>

FUJIFILM
Value from Innovation

馬用サプリメント
Pure Salacia
ピュア サラシア



サイエンスに裏付けられた腸内環境サポートサプリ

特長

- 天然植物サラシアに含まれるサラシノールが、馬の腸内の乳酸菌比率を増加させる^{※1}
- エネルギーの吸収に適した腸内環境に整える^{※1※2}

^{※1} 2016年 日本ウマ科学会にて発表

^{※2} Jumpertz R et al., Am J Clin Nutr, 94(1):58-65, (2011)

給餌方法

成馬

仔馬

(500kg換算): 8~16 g/日 (100kg毎): 1.6~3.2 g/日
(かさ目安30~60 mL/日) (かさ目安6~12 mL/日)

- 食餌回数に分けて飼料に混ぜて与えてください。
- 状態に応じて適宜、給餌量を調整してください。
- 水に溶かしてシリングで直接与えることも可能です。

■名 称 馬用サプリメント ピュア サラシア
■内 容 量 480 g, 240 g

注意事項 馬以外に使用しないでください。
※本製品は(財)競走馬理化学研究所の薬物検査にて問題ないことを確認しています。

□ 本製品についてのお問い合わせは

株式会社富士フィルムヘルスケア ラボラトリー 経営企画グループ マテリアルチーム
〒160-0023 東京都新宿区西新宿5-1-1 新宿ファーストタワー11階
TEL:03-6300-6465

詳しい情報は
こちら▶





BTC調教場利用馬 延べ頭数400万頭到達

公益財団法人
軽種馬育成調教センター
専務理事

山下 芳則



2025年3月11日付けで専務理事に就任いたしました山下です。2021年3月にBTCへ赴任いたしましたので、もうすぐ5年目を迎えようとしております。

就任からまもなく4月7日にBTC調教場の利用馬延べ頭数が通算400万頭に到達いたしました。1993年10月の開場から31年6ヵ月、2018年の300万頭達成から7年での400万頭達成となりました。

これもひとえに長年にわたり調教場をご利用いただいた皆さまをはじめ、関係者の皆さまのご理解とご協力のおかげであると深く感謝申し上げます。

私は1998年から99年にかけてJRA日高育成牧場にも勤務しておりましたが、現在のように調教場の横の道道746号高見西舎線を馬が頻繁に横断していたという記憶がほとんどありません。当時の調教場利用馬延べ頭数もかなり少なかったのではと思い、残っている統計資料を見返したところ、98年が74,524頭（1日平均239.6頭）、99年が93,958頭（1日平均302.1頭）と現在よりはかなり少ないものの右肩上がりで頭数が増えている時期でした。一方、近隣にある民間の育成牧場の馬房数はどうだったかというと300前後だったので、頻繁に馬が横断していた記憶が無いのも頷ける話だと思った次第です。

それから四半世紀以上が過ぎ、2024年は利用馬延べ頭数が166,817頭※前年比105.2%（1日平均534.7頭）と10年ほど前の利用馬頭数減が続いた大変厳しい時期やコロナ禍を乗り越え、2025年10月31日現在で140,378頭※前年比103.6%と2009年の過去最高の利用馬延べ頭数（180,886頭）に徐々に近づいています。近隣には約1,300馬房の民間の育成牧場の厩舎が立ち並び、調教場を利用する為に馬が頻繁に道道を横断する様子はこの地域で見慣れた光景となり、テレビ番組でも取り上げられるようになりました。隔世の感を感じざるを得ません。

一方、馬に関わっている人はどうなのでしょうか。

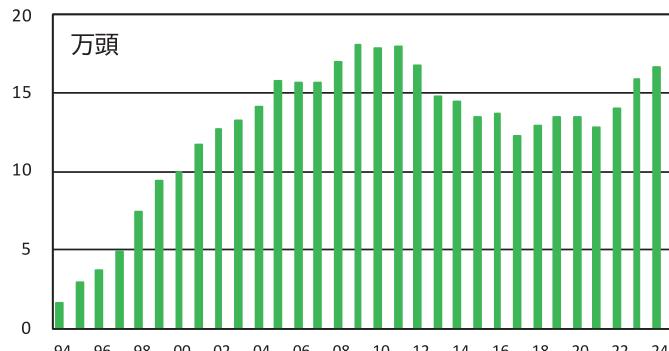


図1 利用延べ頭数の推移



図2 近隣馬房数の推移



図3 調教場の近隣にある道道746号高見西舎線を横断する日帰り利用馬

以前JRA日高育成牧場に勤務していた頃は、浦河町内で外国人を見かける事は多くなかったと記憶しております。BTC調教場を利用するための登録をしていた外国人も1998年は86人（全体の20.9%）、1999年は107人（全体の23.7%）という記録があります。町民全体（約16,000人）との比較では、かなり少數だったものの、登録者の2割以上を占めているので、外国人は貴重な戦力だったことが分かります。それが2025年10月1日時点では、登録者で外国人は304人（全体の60.8%）、逆に日本人は196人（39.2%）と逆転しており、様々な地域の馬産業同様にBTC近隣の民間の育成牧場でも、外国人は必要不可欠な労働力となっている実態が浮かび上がります。

このような背景もあり、BTCでも調教場内の事故を未然に防ぐ取組みとして、各種注意事項の掲示を日本語だけではなく、英語・ヒンディー語でもお知らせする等の安全対策を実施しております。



図4 3か国語(ヒンディー語、英語、日本語)で書かれた掲示物

また、地元自治体である浦河町では、外国人の増加に伴いヒンディー語通訳を雇用するなど、外国人の方が町内でお

り快適に暮らし、今後も長く住み続けたいと思えるような取り組みを進めています。取り組みの詳細については、BTCニュース133号(2023年10月号)および141号(2025年10月号)で紹介しておりますので、ご一読いただければ幸いで



BTC ニュース 133 号



BTC ニュース 141 号

また、馬産業の人手不足がこれほど大きな懸案事項となる前の1992年から、BTCでは騎乗技術者が不足している状況を改善し、育成調教技術の向上に資するため「育成調教技術者養成事業」を実施しております。これまでに600名以上が研修を修了し、修了後は生産・育成牧場に就労しますが、これまでにJRA調教師を5名輩出するなど競馬サークルの様々な分野で活躍しております。現在も43期(23名)の研修生が教官の指導の下、4月の研修修了を目指し日々努力を続けています。次の44期の研修生(27名)も決定しており、現在4月の入講に向けて体力づくり等自己研鑽に励んでいます。

最後に2025年4月からJRAで実施している「屋内1000mトラック馬場等新設工事」の進捗状況についてお知らせいたします。この工事はBTC調教場内に屋内1000mトラック馬場と角馬場を新設、滞在用厩舎4棟(48馬房)と滞在用宿舎4棟(24居室)等を増設するものです。

現在、屋内1000mトラック馬場や角馬場は、安全確保の為仮囲いに覆われた中で、馬場の路盤入れ替えや基礎工事を行っており、また厩舎や宿舎も工事を進めております。

冬季に入り休工となっている工区もありますが、2027年1月の竣工に向けて工事は順調に進んでおります。

竣工後は騎乗者・利用馬の安全確保と強い馬づくりに役立つものになると確信しておりますので、調教場利用者の皆様方にはしばらくご不便をおかけいたしますが、何卒ご理解ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



BFMP®

スノービルダー®

**骨の健康維持を
サポート！**



内容量:300g

ミルクに含まれる微量のタンパク質
BFMP® (Basic Fraction of Milk Protein) を配合しています。

このサプリメント10gにBFMP®が
1,000mg配合されています。

1日1頭あたり10gをめやすく、飼料に
ふりかけるか、水に溶かして給与して
ください。

**トレーニング後の
栄養補給に！**



内容量:900g

ミルクのホエイタンパク質は分岐鎖
アミノ酸:BCAAが構成アミノ酸の
20%以上含まれています。BCAAは
筋肉を構成し、激しい運動の際にはエ
ネルギー源になります。

分子量が小さく、消化吸収に優れた
ホエイペプチドが主成分です。

調教後に1日1頭あたり30gをめやす
く、飼料にふりかけるか、水に溶かして
給与してください。

●北海道でのご用命は

Hokuchiku 株式会社ホクチク

競走馬飼料・資材のバイオニア 【本社】TEL:0146-28-1011

●都府県でのご用命は

JRAファシリティーズ株式会社

【美浦事業所】TEL:029-885-2161 【栗東事業所】TEL:077-558-0319

●製造元

雪印種苗

<https://www.snowseed.co.jp/>



EBMの理念

動物の医療を取り巻く環境は近年めざましい勢いで進歩しており、世界中で新しい医療技術や医療機器、医薬品および飼料の開発が行われています。

EBMトレーディングジャパン株式会社は先端医療のスペシャリストとして獣医療、特に馬に関する最新の医療製品や多様なサービスをお届けする体制の確立に努めるとともに、品質、安全、法令順守を最優先に考え、動物の医療現場のソリューションプロバイダーとして、皆様のお役に立てる企業を目指すことをお約束いたします。



Boehringer ベーリンガーインゲルハイム
Ingelheim アニマルヘルス ジャパン株式会社



ガストロガード®

動物用医薬品
馬用胃潰瘍予防治療剤
要指示医薬品 指定医薬品 使用基準



ハイオネート®

動物用医薬品
馬用非感染性関節炎治療薬



LMFシリーズ(配合飼料)

SUPER SUPPLEMENT (繁殖・当歳~18ヶ月令 蛋白質21%)
SUPER SUPPLEMENT Hi-Pro (繁殖・当歳~18ヶ月令 粗蛋白質30%)
RACE (競走・育成馬 粗蛋白質13%)
RACE Hi-Pro (競走・育成馬 粗蛋白質16%)
PERFORMANCE CONCENTRATE (競走・育成馬 燕麦無 粗蛋白質12%)
SENIOR (高齢馬)



PFN

EQUINE FIRSTシリーズ

AMINOLYTE (アミノ酸) 電解質補給・分岐アミノ酸 (BCAA)

FLEX (フレックス) 関節のサポート

COOL CARE (クールケア) 胃腸のサポート

FOUNDATION HOOF (ファンディション フーフ) 蹄のサポート

PRG-P (リカバリージェル/バウダー) 筋肉のサポート

DIGEST Powder (ダイジェストパウダー) 生菌製剤・プロ/プレバイオテックパウダー

DIGEST Paste (ダイジェストペースト) 生菌製剤・プロ/プレバイオテックペースト

B-RELAXED (ビリラックス) 馬の環境変化に

EBM Trading Japan KK
Evidence-based Biotechnology and Machinery

EBM トレーディング ジャパン 株式会社

本社 TEL:004-0052 北海道札幌市厚別区厚別中央2条5丁目3番31号 新札幌第一生命ビルディング2階
Tel.(011) 827-5960 Fax.(011) 827-5962 <http://www.ebmtrading.com>
関東支店・関西支店

社会人へのウマ産業科学教育の必要性－帯広畜産大学提供の社会人向け教育「馬産業人材育成プログラム」について－

帯広畜産大学グローバルアグロメディシン研究センター、
兼臨床獣医学研究部門産業動物獣医療分野、馬介在活動室長

南保 泰雄

競馬産業の職種

競馬産業を直接的に支える職種には、騎手（ジョッキー）、調教師、調教助手、きゅう務員など、競馬の主役の存在があり、彼らのおかげで競馬が成り立っています。また、競馬番組を支える競馬施行団体（中央競馬、地方競馬）の職員なくして競馬は開催できません。競馬施行団体が設立した、専門性をもつ関係団体と連携し、競馬開催に必要な馬輸送や競馬のスタートゲート、医療機器や薬品の売買、飼料の流通、ドーピング検査、レーシングプログラムの発行配布、保安警備など多岐にわたる職種をつかさどっています。

競馬を広報面から支えるテレビ局・ラジオ局・新聞社、番組作製会社、ライター、トラックマン、アナウンサー、解説者、カメラマン、映像技術スタッフ、出版業者など、競馬の発展になくてはならない存在は、われわれがよくメディアを通じて目にする職種です。

これらの職種のほか、JRA開催10競馬場及び、地方競馬15競馬場では、競馬を円滑かつ公正に運営する警備会社、馬場管理業者、金融機関、受付、案内などの人材派遣会社、ITシステムエンジニア等がかわっています。さらには、競馬当日だけでなく、毎日の馬の飼養管理に必要な飼料や敷料、医療器材や薬品、馬具等の調達準備に携わる中間業者も欠かせません。こうして考えてみると、競馬産業を支える職種は多岐にわたることが理解できます。

競馬を支える生産育成産業

日本には競走馬のふるさとがあります。当然のように思われるかもしれません、競馬が盛んな香港やドバイには生産地がありません。また、昨今競馬を廃止したシンガポール、マレーシア、マカオにも自国に競走馬の生産地域がないことは、競馬産業に生産地が密接にかかわっているという事実

を暗に示しているかもしれません。自国に生産地を持つということは、競馬産業の発展にきわめて有利であるはずです。逆に生産業をすべて外国に頼ることがあってはいけないはずです。現在では、日本生産馬が世界から注目され、競馬サークル全体が生産育成地の重要性を認識しています。

日本は世界各国と比較して馬の飼養頭数は少ないものの、サラブレッドという品種に関しては、米国、オーストラリア、アイルランドに次ぐ世界第4位の生産頭数を誇る一大生産国です。背景には、サラブレッドによる競馬番組がエンターテイメントとして一般層に受け入れられ発展してきたからに他なりません。平成時代の終盤から売得金が上昇に転じ、現在のところ中央競馬、地方競馬ともに好調を維持している状況にあります。我が国の畜産振興、社会福祉に活用される原資となっている国庫納付金が順調に伸びていることは、我が国の畜産の発展に大きく寄与する財源が確保できていることであり喜ばしいことです。しかし、その競馬産業の発展がここ数年急激であること、少子化による若手労働力の不足により、業界ではいま深刻な人材の不足に直面しています。その中でも馬を診ることができます獣医師の不足は深刻な状況と言われています。また、生産地では、労働力不足をカバーするために、外国人雇用が積極的に行われています。

競馬以外の馬産業

東京オリンピック・パラリンピックの開催が決まった後、引退競走馬を多様に利活用し、人と人、人と馬との絆を結ぶ仲介者としての役割を発掘することをJRAやNARが積極的に後押しています。引退した競走馬は、これまでにも増して、馬術部、乗馬クラブで飼養され、神事・祭事、セラピー・馬介在活動、警察騎馬隊などで利用される機会を模索しています。引退競走馬を飼養するには、飼養管理費用を賄う

必要があり、それが乗馬愛好家だけでなく、国民に広く理解されることが重要です。養老牧場と呼ばれる、馬が穏やかに余生を暮らすための牧場の存在は、とくに有名馬を知るファンからの支持が期待されて、それが競馬の人気の再循環にもつながると考えられます。

また、今後は国内における乗用馬生産は新たな産業として発展する可能性があります。2017年からフランスとの衛生条件が確立し、馬の凍結精液の輸入が可能となり、生体での輸入のコストやリスクと比較すると、極めて容易に欧州由来の馬生産が可能となりました。ところが、15歳の乗用馬でも人工授精をすれば生産できると、安易に考える関係者も少なくありません。繁殖牝馬に必要な管理への理解を共有し、馬の繁殖に関する基礎知識を普及しながら実践すること、すなわち欧州での乗馬生産と同レベルの知識や技術を共有することが不可欠な新たな産業分野と解されます。

さらに、日本に8品種存在する日本在来馬の頭数は1800頭以下となり、登録頭数が減少しています。これらの馬を生産、管理し、地域活動に利用するための人材を育成することは、生物多様性維持が求められる観点だけでなく、ホースセラピー・馬介在活動を通じて、馬への理解を広く普及する役割も担っていることから、新しい馬産業と考えられるべきでしょう。

馬産業人材育成プログラム概要

目的: 帯広畜産大学の馬産業人材育成プログラムは、地域及び国内の馬産業に従事する人材を育成することを目的に、馬に関する専門的な知識及び実践的な技術習得を目指しています。令和8年度は、基礎コースとしてこれから馬産業への就職、転職を検討している方や、馬に関する基礎的な知識を身につけたい方を対象に、馬の生態及び飼養や取扱い等について学び、馬産業における基礎的な知識を習得するためのプログラムを実施しています(図1)。

履修方法:

- ①座学講義:原則対面又はzoomによるオンラインにより実施いたします。ただし、業務等によりやむを得ず欠席する場合には、講義動画視聴による補講により出席とみなします。※帯広畜産大学所属学生と同じ講義を受講します。
- ②実習講義:全て対面での受講とし、zoomによるオンライン及び講義動画視聴による補講は行いません。

科目名	開講形式	時間数(時間)	単位数
馬学総論Ⅰ	座学	22.5	2
馬学総論Ⅱ	座学	22.5	2
丈夫な馬づくり学	座学	22.5	2
実践競走馬学	座学	22.5	2
乗馬・飼養管理実習	実習	6.5	—

図1：馬産業人材育成プログラムの講義・実習内容、時間数および単位数

修了要件:

- ①科目修了要件: 講義への出席及び科目別に試験又はレポートにより評価(60点以上で合格)を行います。
- ②プログラム修了要件: 必修科目2科目及び選択科目1科目以上かつ合計60時間以上の修了によりプログラムの修了を認めます。
- ③対象科目: 必修科目 ・馬学総論Ⅰ ・馬学総論Ⅱ、選択科目 ・丈夫な馬づくり学 ・実践競走馬学 ・乗馬 ・飼養管理実習
- ④修了証及び履修証明書の発行: 修了者には、プログラム修了証及び学校教育法第105条の規定に基づいた、履修証明書を交付します。
- ⑤単位認定について: 本プログラムの科目を履修した方には開講科目一覧に記載した該当科目において単位の認定を行います。

馬産業人材育成プログラム各講義実習の内容

以下に「馬学総論Ⅰ」「馬学総論Ⅱ」の授業の概要を記します。馬学総論Ⅰのシラバス概要は、「馬という動物の基本について理解し、その概要を学ぶ。民族特性、歴史、内外の馬産業地域など人との関わりを理解するとともに、行動学、飼養栄養学、馬学、獣医学、生産育成との関連を理解することにより馬に親しみを感じ、馬を総合的に理解する

「入門としての知識を養う」となっています。

馬学総論Ⅱのシラバス概要は、「日本の馬産業をより深く理解するとともに、より発展応用的な総合馬学を学ぶ。特に馬産業を代表する競馬産業や、今後発展が期待される国内乗馬産業、さらには馬の多様な利活用を推進する地域貢献や馬事文化普及の具体的な産業や文化について、より発展した知識や対処方法を養うための授業内容である。総合的なウマ科学を学ぶ主体をなす講義として役立てていただきたい。」となっています。

表1に、令和7年度の「馬学総論Ⅰ」「馬学総論Ⅱ」の授業項目（予定含む）をまとめました。シラバスにそって、多岐にわたる馬学(Equine Science)の総論について、多くの講師陣により、テーマごとに授業を進めます。

図2は、馬学総論Ⅰの対面授業の様子を示しています。令和7年度には、馬学総論Ⅰに117名の履修者がありました。選択科目にして、多くの履修登録を受け、100名以上の受講が可能な大講義室での講義を実施しています。

また、「丈夫な馬づくり学」は、競走馬にても、乗用馬にても、生産育成段階での飼養管理が重要であることを力説し、学部教育のみならず、社会人リカレント教育を強く

表1：令和7年度の「馬学総論Ⅰ」「馬学総論Ⅱ」の授業テーマ

2025年度前期 馬学総論Ⅰ 科目責任者南保泰雄

	時間	場所	講師・担当者(敬称略)	講義テーマ
4月7日(月)	1 16:30-18:00	大講義室	南保泰雄	馬の進化と家畜化
4月14日(月)	2 16:30-18:00	大講義室	南保泰雄	馬体の名称 毛色の種類・遺伝
4月21日(月)	3 16:30-18:00	大講義室	南保泰雄	日本在来馬の特徴とその保護
4月28日(月)	4 16:30-18:00	大講義室	南保泰雄	サブレッドとは 競馬の世界
5月5日(月)	休 講(祝日)			
5月12日(月)	5 16:30-18:00	大講義室	旗丸巴(とから馬文化を支える会専務理事)	ばんえいの歴史
5月19日(月)	6 16:30-18:00	大講義室	柏村文郎	馬の栄養と飼料
5月26日(月)	7 16:30-18:00	大講義室	柏村文郎	馬の飼育設計
6月2日(月)	8 16:30-18:00	大講義室	柏村文郎	乗馬の歴史と馬術
6月9日(月)	9 16:30-18:00	大講義室	柏村文郎	障がい者の乗馬
6月16日(月)	10 16:30-18:00	大講義室	南保泰雄	馬の繁殖検査 前半
6月23日(月)	11 16:30-18:01	大講義室	田上正明(特任教授 社台ホースクリニック)	馬の病気・手術
6月30日(月)	12 16:30-18:00	大講義室	南保泰雄	馬の繁殖検査 後半
7月7日(月)	13 16:30-18:00	大講義室	南保泰雄	馬の妊娠生理・管理・産科学
7月14日(月)	14 16:30-18:00	大講義室	南保泰雄	雄馬の生殖・子馬の病気・初乳
7月21日(月)	休 講(祝日)			
7月28日(月)	15 16:30-18:00	大講義室	南保泰雄	馬の中期後期育成 セリ
8月4日(月)	16 16:30-18:00	大講義室	南保泰雄	PC利用テスト(google form)
8月13日(水)	16:30-18:00	未定		再テスト(google form)

2025年度後期 馬学総論Ⅱアドバンスト

	時間	場所	講師・担当者(敬称略)	講義テーマ
10月2日(木)	1 10:30-12:00	25番教室	南保泰雄	オリエンテーションおよび来馬生産と人工授精
10月9日(木)	2 10:30-12:00	25番教室	福間直希	馬の腸内細菌叢と発酵
10月16日(木)	休講	10:30-12:00		
10月23日(木)	3 10:30-12:00	25番教室	渡部浩之	乗馬生産と生殖補助医療
10月30日(木)	4 10:30-12:00	25番教室	花田正明	草地管理・放牧地管理
11月6日(木)	5 10:30-12:00	25番教室	佐々木基樹	馬の体・解剖学
11月13日(木)	6 10:30-12:00	25番教室	南保泰雄	多様な馬の利活用
11月20日(木)	7 10:30-12:00	25番教室	柏村文郎	馬の自然と行動特性
11月27日(木)	8 10:30-12:00	25番教室	柏村文郎	馬の学習原理と調教
12月4日(木)	9 10:30-12:00	25番教室	鬼塚峻大	海外競馬産業の比較
12月11日(木)	10 10:30-12:00	25番教室	武山暎子	ばんえい競走馬の診療・治療
12月18日(木)	11 10:30-12:00	25番教室	濵木孝弘	乗馬の生産と繁殖
12月25日(木)	12 10:30-12:00	25番教室	南保泰雄	重種馬の育成
1月1日(木)	祝日 10:30-12:00	25番教室		きゅう舎・牧場の管理・馬輸送
1月8日(木)	13 10:30-12:00	25番教室	塙瀬友樹(JRA)	日本中央競馬会について
1月15日(木)	14 10:30-12:00	25番教室	鈴木祐宇利(NAR)	地方競馬全国協会について
1月22日(木)	15 10:30-12:00	25番教室	南保泰雄	模擬試験・小論文、
1月29日(木)	10:30-12:00	25番教室	南保泰雄	PC利用テスト(google form)
2月5日(木)	10:30-12:00	25番教室	南保泰雄	PC利用再テスト(google form)

意識して設立した授業科目です。講師陣は、生産育成での業務経験の長いJRA職員をはじめ、専門的な内容となつておらず、授業の終盤30分は、質疑応答を基本とした授業となっています。



図2：馬学総論Ⅰ（畜産科学・共同獣医学2年生対象授業）の学生受講風景。馬産業人材育成プログラム受講者は、対面・オンライン・オンデマンド受講のいずれかを選択して受講する。

さらに、「実践競走馬学」では、競馬産業にたずさわっているオーナー、調教師、厩舎関係者、生産育成関係者、スポーツドクター、臨床研究者らが、競走馬管理に即戦力となる情報、技術を講演し、その内容について討議する講義となっています。競走馬の管理について、より発展した知識や対処方法を養うための授業内容となっており、競馬関係者のみならず、コアな競馬ファンにも興味深い内容となっています。こちらの授業も、後半は質疑応答を基本としており、テストでの評価ではなく、授業内容に対する自身の感想や競馬産業への在り方を記載することによるレポート評価となっています。

また、社会人が履修できる実習として、「乗馬・飼養管理



図3：乗馬・飼養管理実習の様子（馬の飼養管理、装鞍、銜つけ実習、および覆馬場での騎乗実習）

実習」があります。2日間の集中実習の中で、馬の取扱いの基本・除糞・給餌などの飼養管理と、馬具の装着方法・乗馬実習を実施します。全国各地の参加者より、「とても充実していた、もっと長く実施してほしい」という意見もありました。本乗馬実習は、帯広の環境や食を楽しみながら履修できるようになっています。



図4：乗馬・飼養管理実習の様子（左：大学構内での乗馬）

帯広畜産大学の強み

帯広畜産大学には、「動物医療センター産業動物診療科」が組織されており、24時間365日の馬診療を実施しています。この恩恵は、学内のウマ37頭（2025年10月現在）にとっても大きく、また獣医畜産学教育に大いに役立っています。また、2014年に「馬介在活動室」が組織され、馬に関する教育研究、地域貢献が円滑となるように調整し、将来的に馬の研究・利用の世界的拠点を目指すことを目標としています。現在、競馬関連団体からの施設整備事業の支援により、馬事教育施設の充実が着々と進められており、馬産業への人材育成教育を進めることができますようになりました。

おわりに

日本の産業界では、就職してから学ぶというしきたりがあり、企業も教育をするには、まっさらな頭のほうが都合がよい、という声もあります。しかし、基礎を学んでおかないと応用が利かないことは多く、なによりも「学びに無駄はない」との言葉を心から信じています。馬産業への就職や関わりたい気持ちをお持ちの方には、せひとも「馬産業人材育成プログラム」を活用していただければ幸いです。

地域及び国内の馬産業に從事する人材を育成することを目的に馬に関する専門的な知識及び実践的な技術習得を目指します。

履修証明プログラム

馬産業人材育成プログラム

基礎コース 馬の生態及び飼養や取扱い等について学び、馬産業における基礎的な知識を習得するためのプログラムを実施します。

対象 馬産業に就職して間もない若手職員。
これから馬産業への就職、転職を検討している方
馬に関する興味・関心あり。
馬に関する基礎的な知識を身につけたい方

受講料 10万円（税込）

修了条件 必修科目2科目及び選択科目1科目以上
かつ合計60時間以上の修了

プロトラ修了者は修了証書および履修証明書を交付します。
さらに希望者には修了科目の単位を認定します。

詳細はこちら

募集や科目の詳細は
二次元コードから
ご確認ください。

QRコード

2026年4月～2027年3月

2026年1月第2期募集開始

科目概要

必修科目

- 馬学総論Ⅰ** 馬生物学、歴史、国内外各地の馬産業など人との繋がりを理解することとともに、馬の行動学、飼養栄養学、馬小生、財政学、生産育成との関係を理解し、馬を総合的に理解する入門知識を学びます。
- 馬学総論Ⅱ** 日本の馬産業をより深く理解するとともに実践応用的な知識を学びます。特に競馬産業や馬産業さらに馬の多様な利活用を実践する馬の経営や馬事文化普及等の具体的な産業や文化に焦点を当て、より実践した知識や方法を学びます。

選択科目

- 丈夫な馬づくり学** またて競馬産業を理解して、実践的にお産業栽培技術と生産管理についての情報を収集を学び、競馬内で知識を通じて馬の生産管理についてのより発展した知識や技術方を身につけます。
- 実践競走馬学** 競走馬のオーナー、調教師、厩務官、生産者、関係者等の育成を企画し、即時となる競走馬管理の技術や技術について学び、討議することにより、競走馬の管理についての高度な知識と対応方法を身につけます。
- 乗馬・飼養管理実習** 人と馬との個別個体やコミュニケーションを深くするために必須となる、馬の手入れ方法や飼養について、実馬を用いて実習します。また、馬具の付け方や馬の制御方法について学びます。

事務局 带広畜産大学 教務課社会人教育係 0155-49-5325 rec_kyoumu@obihiro.ac.jp

図5：2026年度受講生（4月開講）の募集チラシ（2026年1月募集開始）

スマホでも
パソコンでも！

BTC NEWS

最新号からバックナンバーまで
WEBでご覧いただけます

QRコード

イギリスとアイルランドの育成について（その③）

日本中央競馬会 日高育成牧場 調査役

竹部 直矢

前回まではジャドモントファームにおける騎乗馴致から放牧地騎乗までのお話をしました。放牧地で安定した騎乗ができるようになった次のステージは、いよいよ本格的なトレーニングを開始し、競走期を過ごす調教師の元に行くための準備の期間となります。

集団調教の開始

騎乗馴致開始後約1ヵ月半となる10月下旬から、馬達は集団調教を開始します。ジャドモントの後期育成部門であるフェランズ・スタッドでは、約20人の騎乗スタッフが働いており、これまで牡廄舎と牝廄舎にそれぞれ分かれて騎乗馴致を実施していたのですが、このステージからは全騎乗者が牡も牝も担当するようになります。約100頭を約20人で調教するので、一人当たり5鞍程度乗ることになります。一鞍あたりの騎乗時間はクーリングダウンの常歩も含めて30分程度で、朝8時から開始し13時前に終わります。この間には、休養している現役競走馬などを調教する一鞍と、現地の牧場では一般的に取り入れられている「Breakfast Time（朝食休憩）」の約30分が含まれています。

毎日の5鞍は、牡のみの群2鞍、牡牝混合群1鞍、牝のみの群2鞍となります。各馬は廄舎で馬装をした後に騎乗し、ウォーミングアップ用の小さめの調教トラックに集合し調教が開始されます。

なお、これまで夜間放牧をしながら騎乗馴致を行っていましたが、集団調教開始とともに放牧を終了します。調教の時間以外は馬房にいることになるので、飼養環境が大きく変化します。夜間放牧を行わなくなることで体力に余裕ができる上、環境が変わるこのタイミングが最も馬がうるさくなる時期で、特に調教前に馬場に集合した際には暴れたりする馬も散見され、騎乗時には注意が必要でした。ただし調教が進んで馴れてくれれば、安定して大人しく運動ができるようになってきます。

調教施設

調教トラックは、主に大小2つの馬場を用いて調教が行われます。ともに材質はウッドチップで、3種類の細かさの異なったチップを階層ごとに敷き詰めて作られたコースとなっています。表層には細かいチップ、深層には粗いチップが用いられており、クッション性が非常に高く水はけが良い馬場となっています。



調教トラックの材質はクッション性の高いウッドチップ

小トラックは1周約270mの馬場で、日本でよく使用されている橿円形の馬場とは違い、コーナーが直角に近い長方形のような形をしています。後にご紹介する大トラックも同様の形状なのですが、なぜこの形状なのかを質問したところ、コーナーが急であると馬に手前変換をさせやすく、また急なコーナーを意識して馬がバランスを自分でとるようになる、などのメリットがあるということでした。

小トラックでは約20頭が一列になり、速歩で2周程騎乗後、キャンターを2~3周します。ハロン30秒前後のゆったりとしたキャンターで、あくまでウォーミングアップと集団での調教に馴らすことを主眼に行われ、続く大トラックでの調教に備えます。なお、手前は一日毎に変えており、バランスが偏らないようにされています。



全周約 270m の長方形に近い小トラック



小トラックでは一列でゆっくりなキャンターで騎乗する



同牧場のメイントラックである大トラックは全周約 880m ある

大トラックは1周約880m の馬場で、小トラックに似た形状をしているメインの調教トラックとなります。入口付近には馴致用のゲートが設置されており、毎日馬場入り前に通過させます。馬場入り後は、一列で半周ほど速歩をしてからキャ

ンターに移ります。走行距離は、集団調教開始直後の10月から11月までは2.5周が基本で、体力がついてきた12月頃には3.5周のキャンターがベースになります。ハロンタイムは、10月はハロン25秒程度まで、11月以降はハロン20秒程度から18秒程度まで徐々に速くしていきます。

さらにこの他に12月の後半からは週2回ほど坂路調教も行います。全長約900m の直線に近いコースで、傾斜は2~3%程度になっています。この馬場は休養中の現役競走馬は迫切に使用することもありますが、後期育成馬には大トラック同様、無理のない強度での走行に使用されます。

ルーティーンワークで落ち着いた精神をつくる

これらの調教の過程ではどのようなことを意識して調教がされているのでしょうか。ジャドモントファームに限らず、私の研修した他の牧場や厩舎においても同様なのですが、精神的に落ち着いた馬 (Calm な馬) が好まれています。落ち着いたメンタルを獲得させるために、なるべく馬にトラウマを与える、嫌なイメージを残さないようにすることが意識されています。精神的に落ち着けば、日頃の取り扱いが簡単で安全というメリットがあることはもちろんですが、競馬にもメリットがあると考えられます。特に欧州の競馬は、日本の競馬よりも道中一団となって進み、最後の仕掛けどころからの決め手勝負になりがちな特徴があるため、いかに道中で体力をロスせず、余力を残すかが要求されると思います。うるさく落ち着きのない馬は無駄な力を使ってしまいがちと考えられるので、この辺りも理由の一つとなっているかもしれません。

落ち着いた馬にするために具体的に行っていることは、「ルーティーンワーク」を繰り返すということです。日本の育成牧場では、1週間の調教メニューの中には、週に1~2回の追切や強めの調教を課すことが一般的かと思います。一方、フェランズ・スタッドの調教メニューは、前述のような調教メニューを毎日繰り返します。私はこの牧場では1歳の12月末までしか過ごせなかったので、それ以降のメニューについては聞き取りに基づく情報なのですが、年明け以降も同様の調教が課され、それは2歳の3月から始まる調教師厩舎への移動まで変わらない、ということでした。実際の競馬ではもっと高強度の運動が求められる中で、トレーニングのオーバーロードの原則（普段よりも強い負荷をかけることで、身体機能が向上するという原則）からすると、物足りない強度ともいえると思いますが、それ以上に追切をすることで馬が興奮しやすくなることを嫌うのかもしれません。育成

期はあくまで精神面の安定と基礎体力の向上に努め、それ以上の負荷は調教師厩舎に行ってから、といった住み分けがなされているように感じました。



アップダウンのある大トラックでの調教の様子

なお、これは私の経験した牧場や厩舎で共通するのですが、英国・愛国では調教タイムを時計で計測することはあまり行われていません。前述の走行タイムは私がGPSで計測したもので、現場での指示はあくまでSteady（持ったままで馬が安定してキャンターを継続できる速度）ということだけなので、調教が進めば速度は徐々に上がっていくのもしかせんが、迫切と呼べるいつもと全く異なる高強度の運動は育成期には基本的にしないようでした。

傾斜のある環境での調教

もう一つ特徴的なのは調教環境です。使用しているトラックのうち、小トラックは平坦なのですが、大トラックには傾斜が存在します。長方形の短辺の方向に約2~4%にもなる上りと下り勾配が存在しており、この中でキャンター調教が行われています。これはトラックが設置されている場所の自然な地形によるものです。日本では上り坂の坂路調教は一般的ですが、ここまで急な下り坂の環境を備えた調教施設は珍しいと思われます。

トラックを2~3周キャンターで周回する間、馬達は上り、平坦、下りと様々な条件を繰り返し経験することになります。その間もバランスを保って走行していくかなければなりません。特に下り坂を走っている間は、馬は頭部が重い馬体の構造をしているため、バランスが前のめりになったり、走行スピードが勝手に速くなりすぎてしまったりしがちです。そうならず安定して効率的な走行をするためには、馬は自分でバランスをキープしながら走る、いわゆる「セルフキャリッジ」の状態でいることが求められます。前回の原稿でご紹介した「放牧地での騎乗」でも上りと下り傾斜の中、調教がされていました。これらのような経験を通して、走行中のバランスを如何に馬がキープできるように調教するかということが重視されているのでしょう。

なぜそのようなことが行われているのかというと、英国・愛国の競馬場の構造が関係しています。本連載の初稿において紹介したエプソムダウンズ競馬場の例のように、現地の多くの競馬場ではアップダウンが多く存在しています。実際の競馬の舞台でも同様のバランスを維持する能力が必要不可欠になるため、このようなトレーニングが効果的なのだと思います。

ここまで3回の連載で、ジャドモントファームにおける騎乗馴致や調教方法についてご紹介してきました。同牧場は欧洲において数々の名馬を輩出してきた牧場であり、私が研修で乗っていた現3歳世代からも、愛2000ギニーなどマイルG1を2勝したField of Gold(父:Kingman)と2歳のスプリントG1であるフィニクスSを制したBabouche(父:Kodiak)の2頭のG1ホースが既に出ています。現地におけるトップクラスの馬づくりがされているのは間違いない、凱旋門賞をはじめとした欧洲競馬で活躍する馬をつくるためのヒントが、これらの手法の中にはたくさん含まれているのだと思います。



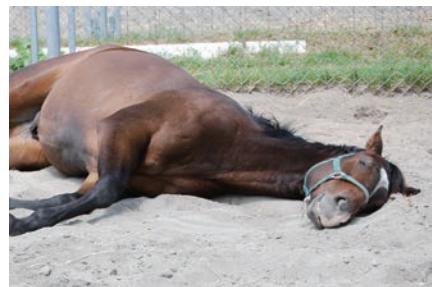
BTC 調教場 (浦河高校写真部 BTC フォトコンテスト用撮影)



加藤小遙「信頼ジャンプ」



古川隼也「いくぞ！！」



笹原なりえ「心地よい眠り」

競馬に携わるすべての人に

JRA-VAN TARGET

市場取引馬データ



調教師ごとの
調教データ一覧



生産者・馬主ごとの
データ分析



種牡馬の傾向分析



JRAシステムサービス株式会社

JRA-VAN TARGET



Thoroughbred Breeders Club - Stallions Information -

国内で重賞3勝、海外でG1 2着 4回、芝2000mのスペシャリスト



ログノーシス

Prognosis(JPN)

2018年生 千歳産 鹿毛

父:ディープインパクト 母*ヴェルダ(by Observatory)

- ダービー馬シャフリヤールや菊花賞馬ドゥレツツアを相手に2000mのG2札幌記念とG2金鯱賞を制覇
- 当地的チャンピオンホースを相手に香港のG1クイーンエリザベス2世Cは3年連続で2着。オーストラリアのG1コックスプレートで2着と世界トップレベルの実力を見せる。
- 半姉ヴォルダは英G1チエヴァリーパークSを制した名牝。

19戦 7勝 2着5回 3着2回 総賞金3億4595万1000円、
1852万HK\$、75万豪\$

競走成績	1st 金鯱賞-G2[2回]	芝2000m
	1st 札幌記念-G2	芝2000m
	2nd クイーンエリザベス2世C[3回]-G1	芝2000m
	2nd コックスプレート-G1	芝2000m
	3rd 天皇賞(秋)-G1	芝2000m

Fee

受胎条件 80万円 *フリーリターン特約付き

配合申し込み・お問い合わせは >>> TEL 01456-2-2121 ブリーダーズクラブ遠藤・秋山・福島・鳥山・平原まで!



ブリーダーズ・スタリオン・ステーション

〒055-0004 北海道沙流郡日高町富川東2丁目972番地3
TEL 01456 (2) 0945 FAX 01456 (2) 2054



(株)サラブレッド・ブリーダーズ・クラブ

〒055-0004 北海道沙流郡日高町富川東3丁目3番1号
TEL 01456 (2) 2121-2122 FAX 01456 (2) 2505

馬メタボリックシンドロームについて

日本中央競馬会 日高育成牧場 首席調査役（研究担当）

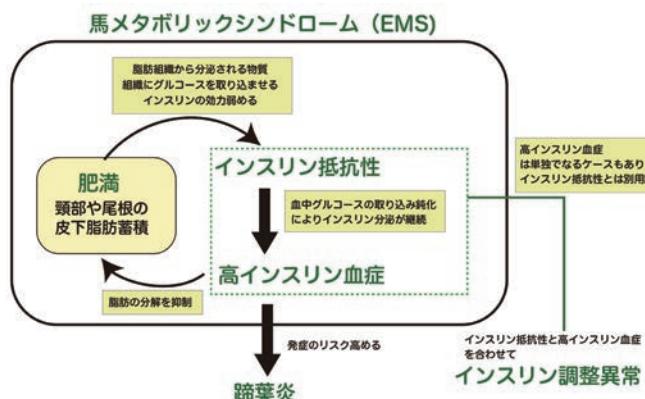
松井 朗

はじめに

ヒトにおいて「メタボリックシンドローム」は広く知られています。これは、内臓脂肪が過剰に蓄積された結果、高血圧や高血糖、高脂血症のいずれかがみられる状態を指します。約十数年前、馬においてもヒトのメタボリックシンドロームと完全に同じではないものの、よく似た状態があることが分かり、それは「馬メタボリックシンドローム」と呼ばれるようになりました。

馬のインスリン調整異常

近年、海外では「馬メタボリックシンドローム」が注目されており、これに関連した情報が数多く発表されています。そもそも「シンドローム」とは、複数の症状や異常が同時に現れる状態を意味します。馬メタボリックシンドロームの代表的な状態は、肥満とインスリン調整異常です（下図）。



「馬メタボリックシンドローム」に関する概略図

飼料摂取によって血液中のグルコース濃度が上昇する

と、膵臓はこれに反応してインスリンを分泌します。インスリンは主に筋肉や肝臓、脂肪組織に作用して、グルコースを取り込むように働きかけます。その結果、血中グルコースは減少し、それに応じて膵臓からのインスリン分泌も抑えられます。この流れが、体内でグルコースが代謝される仕組みです。組織がインスリンに反応してグルコースを取り込む作用を「インスリン感受性」と呼びます。

しかし、インスリン感受性はさまざまな原因で低下することがあり、一定の水準まで落ちてしまった状態を「インスリン抵抗性」といいます。インスリン抵抗性になると、血中グルコースが下がりにくくなり、その分インスリンの分泌も高い状態が続きます。こうした血液中のインスリン濃度が高い状態が「高インスリン血症」です。つまり、インスリン抵抗性が高インスリン血症を引き起こすのです。

一方、インスリン抵抗性がなくても、膵臓が過剰にインスリンを分泌するケースもあり、これも高インスリン血症に当たります。このように、インスリン抵抗性と高インスリン血症は必ずしも同じ意味ではありません。そこで、両方をまとめて「インスリン調整異常」と呼ぶこととされています。

肥満とインスリン抵抗性

馬メタボリックシンドロームのもう一つの状態である肥満について、ヒトのメタボリックシンドロームでは内臓脂肪の蓄積が問題となります。馬の場合は頸や尾の付け根など特定の部位に皮下脂肪が蓄積することが特徴です。このように蓄積された脂肪から分泌される物質（たとえばTNF- α 、IL-6、レプチン、アディポネクチンなど）は、血液を通じて全身を巡り、組織のインスリン感受性を下げる働きがあるとされています。つまり、肥満はインスリン抵抗

性を引き起こす主な原因であると考えられています。

さらに、インスリン抵抗性になると、高インスリン血症が生じます。インスリンの作用によって脂肪の分解が抑制されるため、脂肪がさらに蓄積しやすくなります。その結果、インスリン抵抗性がさらに進行するという悪循環に陥ります。

ここで整理すると飼養管理の観点からは「高インスリン血症」などの代謝異常が馬にとって望ましくない、という認識で十分です。

高インスリン血症による蹄葉炎

メタボリックシンドロームは、病気というよりも“病気の前段階”と捉えるのが適切かもしれません。ヒトでは、メタボリックシンドロームが糖尿病や高血圧といった病気の原因となります。一方で、馬メタボリックシンドロームは蹄葉炎の発症要因となります。

現在では動物福祉の観点から実施が難しい試験ですが、かつては海外で蹄葉炎の発症実験が行われていました。ある試験においては、高濃度のインスリンを持続的に静脈から投与した際に、蹄葉炎を発症したことが報告されています。血中のインスリンが高濃度になることで、蹄の細胞機能に異常が生じたり、蹄葉の毛細血管収縮による血流減少などが引き起こされると考察されています。しかし、現時点では正確にどのような仕組みでインスリンが蹄葉炎を引き起こすのか、詳細は解明されていません。ただし、高インスリン血症が蹄葉炎の発症原因であることは明らかになっており、高インスリン血症に由来する蹄葉炎は、獣医学的には高インスリン血症性蹄葉炎と呼ばれています。

サラブレッドは馬メタボリックシンドロームになりにくい！？

世界的に馬メタボリックシンドロームが注目されるのは、欧米における馬の飼養管理事情も関係すると考えています。馬メタボリックシンドロームのなりやすさは品種間で異なるとされており、重種やポニーはなりやすい一方で、サラブレッドはなりにくいとされています。欧米では、用途の

違いによりさまざまな品種の馬が飼育されており、高齢になるほど馬メタボリックシンドロームになりやすくなること、そして長期間飼育される馬が多いことから、このシンドロームにかかる馬も増えています。そのため、最近になってこの問題が注目されるようになっています。

一方、日本ではサラブレッドの生産が主流であり、飼育される期間も比較的短い傾向があります。しかし、サラブレッドの繁殖牝馬は長期間飼養されることも多く、この問題とまったく無縁とは言い切れません。

濃厚飼料多給による影響

馬メタボリックシンドロームになる大きな原因是、濃厚飼料の多給であるとされています。そもそも、濃厚飼料の多給によりエネルギー摂取量が過多になることは、珍しくありません。その結果、肥満となり、そこからインスリン抵抗性になるという過程は容易に予想できます。

一方で、肥満になっていなくても、濃厚飼料多給によりインスリン調整異常が生じる場合があるとされています。濃厚飼料に多く含まれるデンプンなどの糖質は小腸で消化・吸収されますが、日常的に糖質の摂取量が多いと小腸での吸収率が上がることが知られています。そのため、糖質を摂取した際に血液中のグルコース濃度が急上昇しやすくなり、それに伴ってインスリンの分泌量も増えて、最終的に高インスリン血症が起こることもあります。この場合は肥満ではないため、定義上は馬メタボリックシンドロームとは呼びません。しかし重要なのは、馬メタボリックシンドロームかどうかではなく、高インスリン血症自体が馬の健康に悪影響を及ぼすという点です。

むすびに

国内のサラブレッド生産の現場において、欧米と同じように馬のメタボリックシンドロームに対して強い警戒心を持つべきかについては疑問が残ります。しかし一方で、サラブレッドの繁殖牝馬が高インスリン血症になるリスクが低いとは言い切れないとも考えています。繁殖牝馬におけるグルコース代謝やインスリン分泌の特徴についても、今後機会があれば解説したいと考えています。

安部 恵央

私はほとんど未経験で馬の世界を志し、基礎的な知識も乏しいまま入講しましたが、毎日が新しい発見と疑問の連続で、とても密度の高い半年間でした。

最初の壁は、研修初期に行われた馬装コンテストでした。制限時間内に馬装を整え、頭絡や鞍、馬体の状態などを採点していただくものでしたが、当時の私は「時間内に終えること」を最優先にしていたため、見落としや小さなミスが多く、結果的に減点が重なってしまいました。貼り出された成績表を見るたびに悔しさが募り、その経験をきっかけに、毎日騎乗時に時間を計りながら各工程を丁寧に行うよう努めました。その積み重ねの結果、今では当時の約3分の1の時間で馬装を終えられるようになりました、自信にもつながっています。

また、研修が進むにつれ、教育エリア内だけでなく、BTC調教場内の屋内1000m直線馬場や800mトラック馬場など、様々な環境で騎乗訓練を行いました。馬も場所によって雰囲気が変わるために、常に馬の反応を感じ取りながら対応する必要があります。スピードのある中で教官の指導を受け、修正していく作業は想像以上に難しく、必死になることも多くありました。

私は、馬に乗るということは自分の命だけでなく、馬の命、そして周囲の安全にも関わることだと感じています。そのため、突発的な事態にも冷静に対応できる判断力と余裕を身に付けることを目標に、日々の訓練に真摯に取り組んでいます。

研修では辛い事も多かった分、自分の弱点や課題と向き合い成長する事が出来たと思います。また、様々な方のご協力のおかげで函館競馬場や牧場見学等、貴重な経験もさせていただきました。感謝の気持ちを忘れずに、一人前のホースマンになれるよう、残りの半年間の研修に臨みたいと思います。



屋内坂路馬場にて（左から2番目が著者）

長渡 彩佳

研修が始まってから瞬く間に半年が経ちました。研修初期は慣れない環境、新しい人間関係、体力不足で肉体的にも精神的にも疲弊していました。しかし今では、当初は距離のあった同期とも打ち解け、体力もついたことで、心にゆとりを持って研修生活を送れるようになりました。

騎乗訓練、厩舎作業では沢山の課題に直面してきました。上手くいかないことが続いたり、他の研修生と比べて出来ないことがあったり、厳しいご指導を頂いたりして落ち込むことも多々ありました。それでも、教官方や他の研修生の助けを借りながら課題に愚直に向き合い、少しでも成長できた時の嬉しさはひとしおです。今後の研修でも様々な課題に直面すると思いますが、課題を乗り越えるために試行錯誤する過程を楽しんでいきたいと思います。

私は、馬に関わる上で必要な事柄を幅広く教えてもらえる学科が研修の中でも特に面白いと感じています。なぜなら、学科で得た知識を実際の馬との関わりや作業に結びつけることで、行動の意味や理論を理解して取り組むことができるからです。試験勉強にも力を入れ、四半期テストと中間テストのどちらも良い点数を収められたことは自信となりました。寮生活では、自由時間の使い方が非常に重要であると感じているので、休む時はしっかり休み、家族との連絡や趣味の読書でリフレッシュすることで身体も心も整えて研修に臨んでいます。また、筋力トレーニングやシミュレーターを使用して少しでも騎乗技術の向上に繋がるように努めています。研修後半でも常に向上心を持ち、馬たち、関わってくださる全ての方々への感謝の気持ちを忘れずに取り組んでいきます。



上半期表彰にて学科優秀賞を受賞

浪川 隼人

この研修に入講してから間もなく半年が終わろうとしていますが、ここまで半年間は、今までの人生の中で最も濃く、あつという間の時間でした。私は大学を卒業してから入講しましたが、この半年間で経験したことや学んだことの多さは、大学の4年間よりも実りの多いものであったと感じています。

入講当初から、自分の弱点を痛感するが多くありました。私は、大雑把で不注意によるミスが多く、おっちょこちよいな性格をしています。説明されたことを一度で理解することが得意ではなく、同じミスを繰り返してしまいます。馬体の綺麗さや馬装の適切さを競う馬装コンテストでは2回連続で最下位となり、馬との距離感を適切に取らざに怪我をして、しばらく騎乗することができなかったこともあります。この研修では、馬に乗るということ以外にも厩舎作業や環境整備など身につけなければならないスキルやノウハウがたくさんあります。むしろ後者の方が圧倒的に費やす時間も多く、この1年間で習得するには予習と特に復習が私の場合は不可欠であると今日までの約半年間でよく分かりました。その為、最近では騎乗訓練の度に、前回の改善点を踏まえて具体的な目標を立て、少しでも同じ失敗を繰り返さないように意識し、上達できるよう励んでいます。

9月末には普段の騎乗訓練に加え、JRA日高育成牧場での馴致実習も始まり、覚えなければならないことが更に増えています。研修生でありながら実際の育成現場に関われる貴重な機会なので、今までよりも意識を高く持ち、教えていただいたことを一回で覚えるよう工夫しながら臨みます。残りの半年も、牧場に就職してから「BTCでの研修が活きた」と言えるよう、必死に自分に甘えず過ごしていきます。



函館競馬場のゴール前にて（後列左が著者）

若林 日和

私たちがBTC研修に入講してから6ヵ月が経過しました。振り返ると、まさに挑戦と成長の連続だったと感じます。新しい環境に飛び込み、慣れない厩舎作業や騎乗訓練、学科に取り組む毎日は、緊張感もあり常に自分を試されているようでした。初めは戸惑いや不安が大きかったものの、思い切って挑戦を重ねることで少しづつ自信へと変わり、できることが増えていく喜びを味わうことができ、この6ヵ月はあつという間で、人生において最も中身の濃い時間でした。

日々の研修では、失敗や反省を経験する場面が毎日のようにあります。しかし、その一つひとつが次への成長につながっていると実感しています。自分の課題に気づき、工夫をしながら乗り越える過程そのものが、成長の糧となって、小さな積み重ねがやがて大きな成果につながることを実感できたことは、私にとってこの半年の中でも特に大きな収穫です。

何より同じ立場で頑張る仲間の姿が常に刺激になります。自分にはまだできないことをやってのける姿に悔しさを感じ、それが努力する原動力になりました。また、自分がつまずいたときには声をかけてもらい、互いに助け合うことで乗り越えられた場面も多くありました。失敗や反省を分かちえる相手がいることは、大きな安心感となり、挑戦を続ける勇気を与えてくれました。

この6ヵ月はまさに「七転八起」を体現した日々だったと思います。思い通りにいかないことが多々ありました。しかし、その度に諦めずに工夫を凝らし、がむしゃらに取り組むことで得られる学びもたくさんありました。

これから下半期は失敗を恐れず全力で挑戦して、更なる成長に繋げていきます。そして卒業する頃には「BTC研修に入講して良かった」と胸を張れるような自分でいたいです。



調教場の800m周回トラックにて（手前が著者）

生産地疾病等調査研究の報告(アンケート実態調査)

日本中央競馬会 馬事部主席調査役

村瀬 晴崇

はじめに

これまで2回にわたり、消化管内寄生虫に関する現状と今後の指針について、AAEPガイドラインの要点を解説してきました。本号からは、「生産地疾病等調査研究」の結果をご報告させていただき、飼養者の皆さんに役立つ情報をお届けします。

生産地疾病等調査研究とは

本調査研究は、馬産地における疾病の課題を解決することを目的に、日高軽種馬防疫推進協議会とJRAが共同で3年毎にテーマを設定して取り組んでいるプロジェクトです。日高家畜保健衛生所、日高軽種馬農協、NOSAI北海道、開業獣医師など、多くの獣医師が組織の垣根を越えて協力し、講習会や各種紙面を通じて成果を現場に還元しています。これまでのテーマは以下のとおりです：

- ・2007-09：早期胚死滅
- ・2010-12：後期流産
- ・2013-15：発育期整形外科的疾患(DOD)①
- ・2016-18：発育期整形外科的疾患(DOD)②
- ・2019-21：下垂体中葉機能障害(PPID)
- ・2022-24：消化管内寄生虫

今回の「消化管内寄生虫」は、近年世界的にも注目されている問題であり、多くの賛同を得て実施することが決まりました。調査は大きく分けて3本柱から構成されており、1)関係者の駆虫方針を把握するためのアンケート調査、2)寄生状況を把握するための大規模な虫卵検査、3)手術・検査施設におけるデータ解析となっています。本号ではその中から1)のアンケート調査の結果を紹介します。

まず、駆虫薬についておさらいです。駆虫薬を選ぶ際には製品名ではなく成分で判断することが重要です(表1)。例えば、エクイバランとエクイバランゴールドという製品があり、ゴールドはより効く薬と誤解されがちですが、両製品が含有するイベルメクチンは同成分同濃度のため、ゴールドは「よく効く」のではなく、プラジカンテルを含むことから「葉状条虫にも効く」ということが分かります。また、葉状条虫は夏から秋にかけてダニを介して寄生するため、春期や放牧していない馬には必要性が低いと言えます。このように成分と対象寄生虫を理解することが適切な選択の第一歩です。

表1. 国内外で用いられる主な駆虫薬成分の分類例

系統	成分名
マクロライド系	イベルメクチン、アバメクチン
ベンズイミダゾール系	フルベンダゾール、フェンベンダゾール
テトラヒドロピリミジン系	ピランテル、モランテル
キノリン誘導体	プラジカンテル

獣医師アンケート

日高管内の馬獣医師101名にアンケートを依頼し、75名から回答を得ました。寄生虫管理における課題として、ガイドラインがないことや寄生虫の専門家が乏しいといった指針がないことに不安を抱えている獣医師が多く見られました(図1)。

寄生虫症による死亡を経験した獣医師は繁殖牝馬で32%、子馬で45%に上り、その原因となる寄生虫は繁殖牝馬においては条虫、子馬においては回虫と条虫が多くを占めました(図2)。大円虫と回答する獣医師の多くは21年以上のベテラン獣医師でしたが、6-10年、11-20年の中堅世代

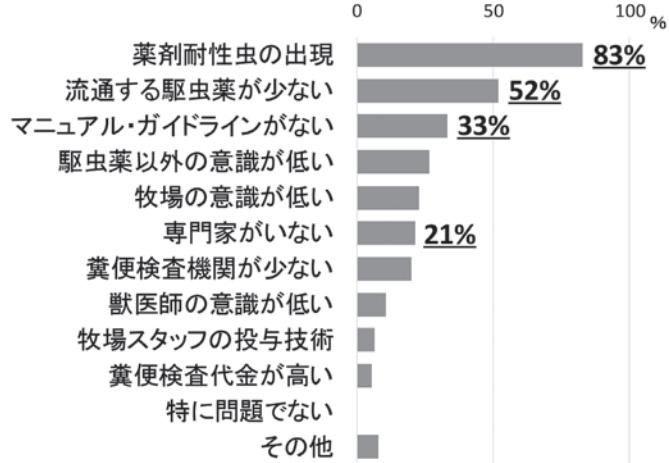


図1. 寄生虫管理において課題・問題だと思う項目

でも経験している者がおり、イベルメクチンが普及した今日においても大円虫による損耗が起きていることが分かりました。大円虫は病原性が高く、警戒すべき寄生虫ですが、イベルメクチン耐性が認められていないため、イベルメクチンを適切に投与していれば防ぐことができます。また、薬剤耐性寄生虫を疑う死亡例を経験した獣医師は8名おり、うち3名は6例以上を経験していました。これにより、耐性化は生産地に均等に広がっているのではなく特定の地域、牧場、獣医師に偏っている可能性が示唆されます。

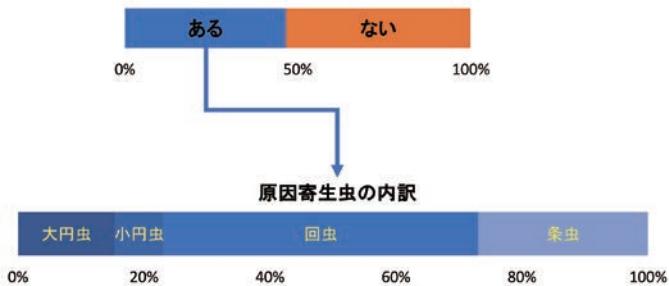


図2. 寄生虫感染による子馬死亡を経験したことがあるか？

駆虫薬については、イベルメクチン単剤、フルベンダゾール、イベルメクチン・プラジカンテル合剤といった国内製剤が多く使用されていましたが、フェンベンダゾール、ピラントル、アバメクチン・モランテル合剤、オクスフェンダゾール・ピラントル合剤といった国内で市販されていない薬剤を輸入して用いている獣医師もいました。仮に国内市販薬で効果が認められなかったり、粉末製剤が扱いづらかったりする場合には輸入薬を利用するのも有効かもしれません。その

際には、輸入薬だから効果が強い、成分名が違うから効くだろうと決めつけず、虫卵検査で有効性を検証することが重要です。

当歳への駆虫指導については、77%の獣医師が日齢に応じた個別投与を推奨し、そのうち49%の獣医師が30日齢で初回投与を推奨しています。駆虫間隔は2ヵ月間隔（38%）が多く、1ヵ月や1.5ヵ月間隔を含め、88%の獣医師が2ヵ月以内の間隔を推奨していました。また、少数（15%）ではありますがイベルメクチン製剤（単剤もしくはプラジカンテルとの合剤）のみを用いている獣医師もいました。条虫に有効なプラジカンテルを必ず投与している獣医師は44%と半数未満でした。

繁殖牝馬に対しては、定期的な一斉駆虫が過半数（53%）であり、その内訳は年2回（22%）と2ヵ月間隔（31%）に大きく分かれました。32%がイベルメクチン製剤のみを用いており、必ずプラジカンテルを投与している獣医師は68%と当歳馬より多いものの、やはり条虫への意識が十分ではないことが窺えます。

生産牧場向けアンケート

生産者に対する調査については、日高管内を9地区に分割し、飼育規模分布を考慮した上でランダムな牧場リストを作成し、順に協力を依頼しました。その結果、69牧場にご回答いただきました。（次号紹介する虫卵検査の対象牧場も同じです）

現状、問題と認識している牧場は42%にとどまりました。これは実際に寄生虫に起因する死亡事例の経験が少ない（子馬4戸、繁殖牝馬4戸）ことが理由と思われます。

当歳では、80%の牧場が月齢に応じて個別投与しており、そのうちの60%が初回駆虫を1ヵ月齢で、87%が1~2ヵ月間隔で駆虫していました（図3）。一方、繁殖牝馬について

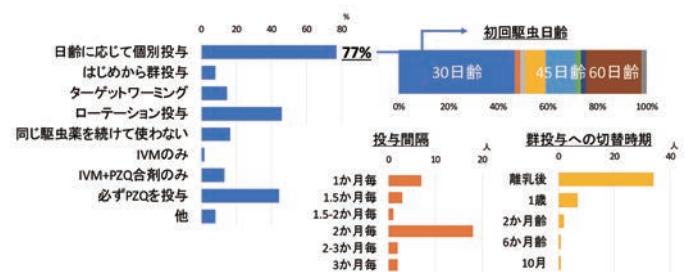


図3. 当歳馬への駆虫方法

は87%の牧場が定期的な一斉駆虫を行っていましたが、投与間隔は1.5~12ヵ月とさまざまでした。プラジカンテルを投与している牧場は当歳30%、繁殖牝馬42%であり、やはり葉状条虫への警戒が十分でないことが窺えました。

虫卵検査を実施したことがある牧場は62%と半数以上を占め、最も多い理由は疝痛の原因検索（30%）でした。しかし、円虫卵や回虫卵が検出されたとしても、その寄生虫が疝痛の原因かどうかは判断できないため、虫卵検査は疝痛の原因検査としては推奨されていません。これについても近年ガイドラインで明記されています。

駆虫薬以外の管理方法に関して、掃除刈り、ハロー掛け、放牧地の入替を行っている牧場はそれぞれ96%、25%、45%でした。ボロ拾いを週1回以上行う牧場は小パドックについては56%と半数を超ましたが、放牧地については25%と低い結果となりました。円虫・回虫は牧草を介して寄生するため、放牧地ほど寄生リスクが高いことにご留意ください（ロドコッカス感染症の予防のためには、より幼弱な時期を過ごすパドックのボロ拾いの方が重要です）。堆肥づくりについては散水や切り返しなど適切に実施していると回答した牧場は55%でした。発酵熱が十分に上がらないと虫卵が死滅せず、放牧地に虫卵を散布する危険性があるため注意が必要です。

育成牧場向けアンケート

BTCを利用する25牧場を対象にアンケート調査を行いました。寄生虫症による死亡経験がある牧場は1戸のみでした。

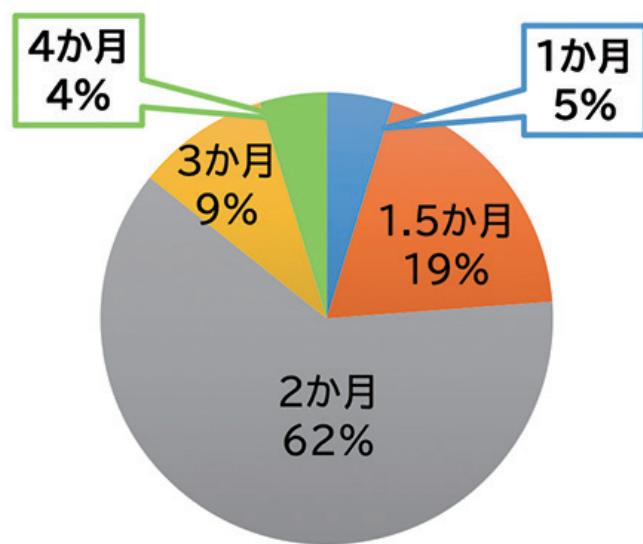


図4. 育成牧場における駆虫間隔

た。1歳になると回虫症リスクも下がり、厩舎飼育ではダニを介した葉状条虫の寄生リスクも下がるため、一般に生産牧場より寄生虫症のリスクは少ないと言えます。現状、問題があると認識している牧場は6牧場（24%）と生産牧場よりさらに少ない結果でした。

定期的な駆虫は23牧場で実施され、86%が2ヵ月以内の間隔でした（図4）。48%の牧場がイベルメクチン製剤のみを使用し、プラジカンテルの使用率は100%でした。入厩時に駆虫を行っている牧場は28%と、検疫的な駆虫は一般的に行われていませんでした。

虫卵検査を依頼したことがある牧場は44%で、その目的は駆虫の必要性の確認（35.3%）、駆虫効果の確認（17.6%）と続きました。

敷料は、1戸を除いて全て使い捨てでした。放牧はパドックの個別管理が主流であり、44%の牧場で馬を入れ替えるたびに糞便回収を行っていました。育成牧場は毎年さまざまな生産牧場から馬が集まりますが、このような飼育環境から感染拡大あるいは耐性虫が出現しにくい環境であると考えられました。

アンケートからみえてきたこと

今回の調査から、1~2ヵ月間隔で駆虫している牧場が多いことが分かりましたが、これはAAEPガイドラインに比べて過剰と言えそうです。また、葉状条虫の被害があるにもかかわらずプラジカンテルの投与が十分普及していないことも課題と思われました。

さらに、獣医師であっても、明確な指針が分からず困っている状況が窺えました。駆虫薬は予防目的であること、投与が任意であることから、獣医師が管理するというより、牧場が製品を指定することが多いものです。このような主導権・責任が曖昧になっていることも寄生虫管理の課題と言えるかもしれません。心当たりのある牧場においては、これまでの習慣を一度リセットし、この機会に見直しを検討してみてはいかがでしょうか。

見直す際には、そもそも現在使っている駆虫薬が効いているか否かという情報が必要になります。それでは日高管内ではどれほどイベルメクチン耐性寄生虫がいるのでしょうか？次号では虫卵検査に基づく日高地域の寄生状況についてご紹介します。



一緒に働くスタッフを募集しています。

詳細はお電話でのお問い合わせ、
またはウェブサイトをご覧ください。

Tel:0123-21-2311 (担当:佐藤、青田)



リクルートサイト

社台ファーム

〒069-1181 北海道千歳市東丘 1288-140

社台ファーム鈴鹿

〒519-0323 三重県鈴鹿市伊船町 136

山元トレーニングセンター

〒989-2111 宮城県亘理郡山元町坂元一ツ橋 1

日高社台ファーム

〒059-2121 北海道沙流郡日高町門別本町 16

社台ブルーグラスファーム

〒059-2127 北海道沙流郡日高町旭町 23



馬術に関するトピックス満載

日本馬術連盟では、毎月1回 機関誌『馬術情報』を発行しています。
国内の主要競技会、日本選手の国内外での活躍、海外の情報、その他馬にかかわる
トピックス満載です！



月刊 馬術情報 *Japan Equestrian Federation Journal*



公益社団法人
日本馬術連盟

〒104-0033 東京都中央区新川2-6-16
TEL 03-3297-5611 FAX 03-3297-5617
<https://www.equititation-japan.com>

購入・購読のお申し込み方法

毎月1日発行 A4サイズ／約48ページ

定 価

550円 (送料・消費税込)

年間購読

12冊 5,500円 (送料・消費税込)

■お申し込み方法

ハガキ・FAX・ウェブサイトから、下記事項を明記のうえお申し込みください。
代金の入金確認後に発送いたします。

- ① お名前(ふりがな)
- ② 郵便番号
- ③ 住所
- ④ 電話番号
- ⑤ 下記のいずれかを明記してください
 - ・1冊のみ購入希望の場合は希望月
 - ・年間購読希望の場合は購読開始月

■お支払い方法

下記のいずれかの方法でお支払いいただけます。

○銀行振込 : 三菱UFJ銀行 本店
(普) 1447629
コウエキシャダンホウジン ニホンパヅュツレンメイ
公益社団法人 日本馬術連盟

○郵便振替 : 00150-2-31103
コウエキシャダンホウジン ニホンパヅュツレンメイ
公益社団法人 日本馬術連盟

○現金書留 : 〒104-0033
東京都中央区新川2-6-16
馬事畜産会館6F
公益社団法人 日本馬術連盟
総務部『馬術情報』係

※個人情報は『馬術情報』発送の目的以外には使用いたしません。

[GREEN CHANNEL | GREEN CHANNEL BS234ch]

絶・贊・放・送・中 !!

**グリーンチャンネルは中央競馬全レース中継をはじめ、
地方・海外競馬中継、展望番組なども放送中！**

GREEN CHANNEL ?
を見るには

スカパー／(BS234ch)、スカパー／プレミアム／光(688・689ch)、J:COM、eo光テレビほか、
全国のケーブルテレビ局、ひかりTV、auひかりからご覧いただけます。また、グリーンチャンネル
Web(マルチ会員1,000円税別／スマホ会員500円税別)で、外出先でもお楽しみいただけます。

グリーンチャンネル 検索

グリーンチャンネルの視聴方法・番組内容に関するお問い合わせ
または、お客様コール 03-5620-3344(10:00~17:00 年末年始・祝祭日は除く)

★ BTC 調教場利用 重賞競走 優勝馬一覧 (2025年9月～11月分) 関係者の皆様、おめでとうございます。

(中央競馬)	(地方競馬)
・ディープモンスター 牡7歳 京都大賞典 GⅡ (2025/10/05・京都)	・ヤマニンチャルキ 牡3歳 サマーチャンピオン JpnⅢ(2025/09/04・佐賀)
・ニシノティアモ 牝4歳 福島記念 GⅢ (2025/11/22・福島)	・プラウドフレール 牝3歳 マリーンカップ JpnⅢ(2025/10/02・船橋)
	・ヤマニンチャルキ 牡3歳 東京盃 JpnⅡ (2025/10/09・大井)
	・ファーンヒル 牝6歳 JBCスプリント JpnⅠ (2025/11/03・船橋)

あ・と・が・き

★ 年が明け、日高地方は近年同様に小雪傾向が続いておりますが、今季も場内の除雪作業などに万全を期して進めてまいります。寒さが一段と厳しくなる中、若馬たちの調教も本格化し、進度を徐々に高めていく時期となります。本年も鍛え上げた力を存分に発揮し、多くの活躍馬が誕生することを願っております。また、昨年より着工しております屋内1,000mトラック馬場の工事は、竣工まであと1年を要する見込みです。利用者の皆様には、引き続き通行規制などにご理解とご協力をいただきますようお願い申し上げます。本年も「強い馬づくり」に貢献できる調教場を目指し、職員一同、より一層努力してまいりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。
(K. H.)

★ 大半の研修生が親元を離れ、浦河で初めての年末年始を迎えるました。今後の研修では、教育用馬による基礎訓練とJRA育成馬での騎乗実習を繰り返しながら、段階的に技術を積み上げていきます。この時期は成長を実感しづらく、不安を抱える研修生も少なくありませんが、教官から見れば着実に前進しており、日々の取り組みに確かな変化が表れています。残りの研修期間も、一つひとつの実習を大切に進めてほしいと思います。今月末には、BOKUJOB主催の研修コース合同見学会が、初めて冬季に開催されます。寒さのなかでも熱心に取り組む研修の様子を、多くの方にご覧いただく予定です。さらに、3月末にはBTC主催の体験入学会も実施します。昨年は春休みを利用した多数の参加があり、騎乗訓練や施設見学、研修察での電動木馬体験など、進路の参考になる貴重な機会となりました。興味のある方は、ぜひBTCホームページをご確認ください。(詳細は1月上旬ごろに掲載予定です)
(K. S.)

BTCニュース 2026年(1) 第142号

※ BTCニュースに関するお問い合わせ、配送先変更・配達中止のご連絡は、下記にて受け付けております。また、BTCニュースはBTCホームページからもご覧いただけます。

発行日：令和8年1月1日

発行：公益財団法人 軽種馬育成調教センター TEL 0146(28)1001(代)

FAX 0146(28)1003 e-mail : kyoiku_fukyu@b-t-c.or.jp

〒057-0171 北海道浦河郡浦河町字西舎 528

編集責任者：山下 芳則 編集：小林 光紀 制作・印刷：西谷印刷株式会社 〒135-0022 東京都江東区三好2-1-4

フランス製 PVC 馬場柵

人と馬にやさしい馬場柵をお届けします



安全性、経済性を追求した紫外線にも強いPVC素材の馬場柵です

TÉKIDÉ

欧州と中東を中心に世界各地で半世紀の販売実績を持つフランスのPVC(ポリ塩化ビニル)馬場柵メーカー「エコファブ社(旧 Fornells 社)」の製品をご紹介します。

エコファブ社の馬場柵(TÉKIDÉ)は、凱旋門賞が行われるロンシャン競馬場でも採用されています。

JRAファシリティーズ株式会社

〒104-0032 東京都中央区八丁堀3丁目19番9号 ジオ八丁堀
TEL 03(6631)9007 FAX 03(6631)9017

<http://www.jra-f.co.jp/>

詳細は
Webで

JRAF

検索



エクエヌテクト®ERP

馬鼻肺炎生ワクチン(シード)



その他の馬用ワクチン

日生研日本脳炎TC不活化ワクチン

エクエヌテクトFLU

日生研日脳・馬ゲタ混合不活化ワクチン

エクエヌテクトJIT

日生研馬ロタウイルス病不活化ワクチン

破傷風トキソイド「日生研」



日生研株式会社

〒198-0024 東京都青梅市新町9丁目2221番地の1

TEL 0428-33-1009(営業部)

URL <https://www.jp-nisseiken.co.jp>

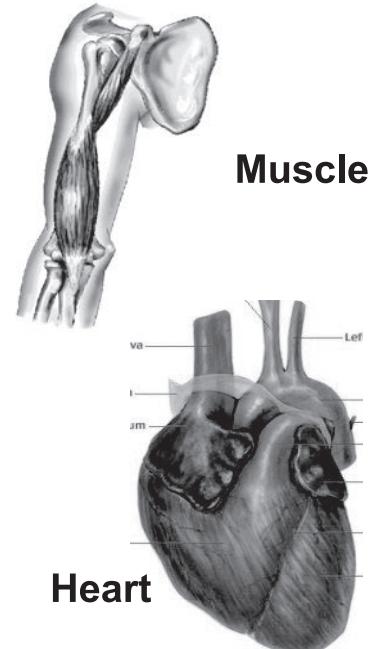
アスカル

競走馬専用
900g(30g×30袋)

Astaxanthin & L-Carnitine

天然型アスタキサンチン
(ヘマトコッカス藻由来)

L-カルニチン



- 品名:アスカル
- 規格:30g/アルミ袋
- 包装:900g(30g×30包)/化粧箱
- 給与方法:馬1頭1日あたり本品60g(30g袋×2回/朝夕)を慣用飼料に混合して給与する。
- 原材料名:米ぬか油かす、ヘマトコッカス藻抽出物(アスタキサンチン含有)、L-カルニチン。

※競走馬のスクミなど筋肉の障害、疾病の治療、改善を目的としてアスタキサンチンを含む飼料及びアスタキサンチンを馬へ与える特許は富士化学工業(株)が所有しております(特許第3660244号)



アスター[®]ルは富士化学工業(株)の商標です。

技術提携先



カルニキング[®]はスイスロンザ社の商標です。



お客様
窓口

株式会社岩崎清七商店 競走馬事業部 TEL 03-3201-1666 FAX 03-3201-0028
〒100-6309 東京都千代田区丸の内2-4-1丸ビル9階912室 http://www.s-iwasaki.jp
[北海道] 株式会社北海道ホースフィード TEL 0146-32-3106
JRAファシリティーズ株式会社 飼糧課 美浦TEL 029-885-2161 栗東TEL 077-558-0319